

世帯内単身者に関する実態調査

結果の概要

1. 調査実施の概要
2. 該当世帯の特徴
 - 世帯主年齢、世帯構造
 - 世帯収入
3. 該当個人の特徴
 - 年齢、学歴、就労状況
 - 貯蓄、家計への繰り入れ
 - 家事時間、ライフスタイル



担当部：社会保障応用分析研究部

TEL: (03) 5253 - 1111 内線 4451, 4442

<http://www.ipss.go.jp>

「世帯内単身者に関する実態調査」 結果の概要

1. 調査実施の概要

1. 調査の目的

本格的な少子高齢社会を迎え、老後保障、医療、児童福祉など社会保障の持つ重要性はますます高まっている。特に出生率の低下に伴う労働力人口の減少と高齢化の進展は現役世代への高負担を強いることになり、負担と受給のアンバランスは社会保障財源にも深刻な影響を与える。一方、若年層の結婚の遅れ（晩婚化）や未婚者の増加（未婚化）は、これまでとは異なる新たな家族像や個人像を生み出すことにもなりうる。

そこで、国立社会保障・人口問題研究所は、少子化をもたらす主たる原因の一つとして晩婚化、未婚化現象に焦点をあて、親族と同居する未婚者の実態を明らかにするために「世帯内単身者に関する実態調査 社会保障と生活との関連をさぐる」を実施することとなった。本調査は、これまで「パラサイトシングル」という言葉であいまいにしか捉えられてこなかった家族と同居する未婚者の実態を把握することにより、これからの社会保障制度を考察するにあたっての基礎的な資料とする。

2. 調査の方法と回収状況

本調査は、全国のすべての世帯のうち 18 歳以上の未婚親族が同居する世帯を対象とした。調査対象地区は、平成 12 年に実施された国民生活基礎調査のために全国から系統抽出法によって選出された 1,048 の国勢調査地区の中から、さらに無作為抽出された 300 の国勢調査地区である。該当世帯の判別については、調査員が直接世帯を訪問し「18 歳以上の未婚世帯員（親族）」の同居が確認された場合に、調査票を配布した。本調査は、世帯票と該当個人を対象とした個人票からなる。調査方法は配票自計、密封回収方式によって実施した。

調査票配布数は世帯レベルで 3,552 票、個人レベルで 4,604 票であった。そ

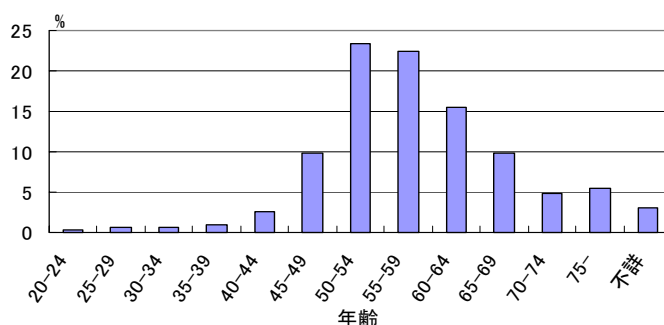
のうち世帯票の回収率は 90.17 パーセント（3,203 票）、個人票は 94.1 パーセント（4,334 票）であった。これらのうち、白票や極めて記入状況の悪い票を削除した有効回答率は世帯票 88.8 パーセント（3,155 票）、個人票 92.5 パーセント（4,258 票）であった。

本調査では、世帯票、個人票ともに有効であり、かつ学生の未婚者を除く世帯（2,667 ケース）と個人（3,422 ケース）を集計対象とした（以降、該当世帯、該当個人とする）。一つの該当世帯に該当個人が複数いる場合は 31.1 パーセントで、その多くはきょうだいであった。また、本調査は厚生労働省「平成 12 年国民生活基礎調査」（世帯票）と同時実施を行い、世帯構成等に関する情報は両調査をリンケージして取得した。

2. 該当世帯の特徴

世帯主は 50 歳代に多い

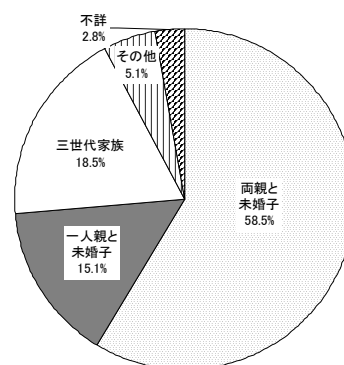
18 歳以上の未婚親族が同居する世帯の世帯主年齢分布をみると（図 1）、45.8 パーセントが 50 歳代に集中しており、40 歳代後半から 60 歳代前半までをいれると全体の 71.2 パーセントとなる。



核家族形態が主流

該当世帯がどのような世帯構造となっているのかをみてみると（図 2）、「両親と未婚の子のみ」が 58.5 パーセントと過半数をしめ、「一人親と未婚の子のみ」（15.1%）を加えると 73.6 パーセントがいわゆる核家族となる。

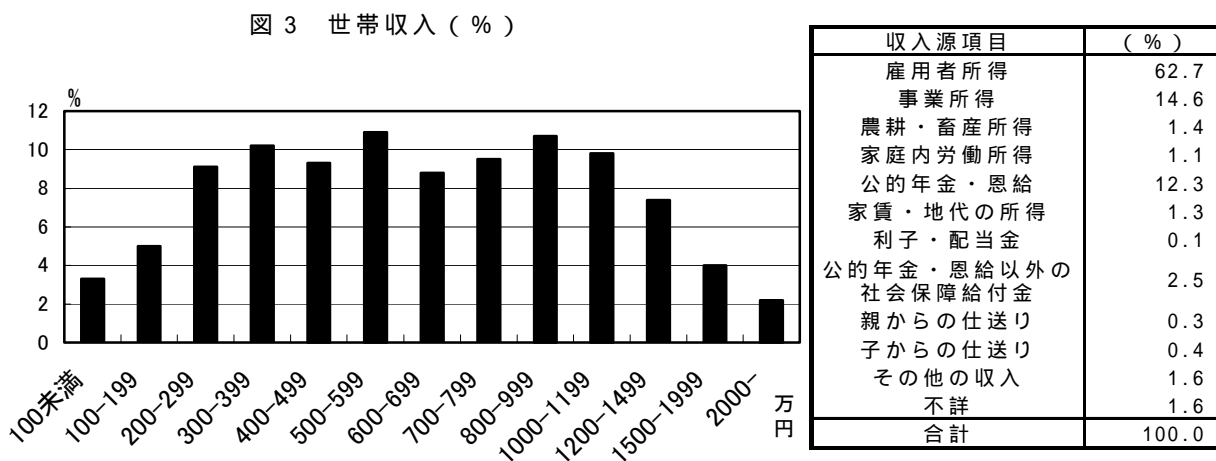
図 2 世帯構造分布 (%)



該当世帯は豊かな所得階層に偏っているのではない

世帯収入分布をみると(図3)、世帯収入は該当世帯の約半数が500万円から1,200万円未満にある。主たる収入源は、雇用者所得である世帯が62.7パーセントで事業所得である場合が14.6パーセントと全体の約8割は稼得所得である(表1)。しかし、1割程度ではあるが主たる収入源が公的年金・恩給であるとした世帯もあることは見逃せない。

表1 主たる収入源の内訳(%)



本調査は、18歳以上の未婚親族が同居している世帯を対象としているので、該当世帯は世帯主が50歳代に集中するというライフステージにおける偏りがあり、若年世帯層や高齢一人暮らし世帯等が除かれている。そこで全体との比較にあたっては、ライフステージの違いを考慮にいれなければならない。表2は、世帯主年齢階級別に平均世帯所得、世帯員一人あたり平均所得、平均世帯人員、平均有業人員を示した。カッコ内は先日公表された「平成12年国民生活基礎調査の概要」結果である。

表2 世帯主年齢階級別にみた一世帯あたり平均世帯所得(中位点推計)

年齢階級	40-49	50-59	60-69	70-
平均世帯所得(万円)	664.6 (727.2)	816.2 (819.3)	677.6 (600.2)	648.6 (467.6)
世帯員一人あたり(万円)	178.4 (199.5)	225.0 (265.9)	204.4 (231.8)	180.5 (202.3)
平均世帯人員(人)	4.05 (3.65)	3.74 (3.08)	3.37 (2.59)	3.61 (2.31)
平均有業人員(人)	2.41 (1.69)	2.66 (2.00)	1.98 (1.25)	1.86 (0.74)

注 カッコ内は平成12年国民生活基礎調査概要結果より引用。

まず、平均世帯所得をみると、世帯主年齢が 40 歳代は全体よりも低いが、50 歳代においてはほとんど全体平均とかわらない。60 歳代、70 歳代は該当世帯の方が全体よりも高いが、全体の平均は高齢層では一人くらしや夫婦のみ世帯が増えてくるので、全体の平均の方が低くなっていると解釈すべきであろう。世帯人員一人あたりの平均所得をだしてみると、どの世帯主年齢層においても該当世帯の方が値が低い。

このように、本調査をみる限り、該当世帯が全体からみて決して経済的に豊かな層に集中しているわけではないようだ。

持ち家率は 8 割と高い

親の健康状態をみると(表 3)、親の健康に問題がないとしたものは約 9 割にもなり、健康上問題のある親を持つケースは 3.7 パーセントであった¹。

住宅状況をみると(表 4)、76.1 パーセントは一戸建てで、マンション等を加えると約 8 割が持ち家である²。居室数(浴槽・トイレを除く)も 5 部屋以上の場合が 7 割近い。また、自分専用の部屋を持っている者が 87.5 パーセントと多数派であって、物理的環境としても概して恵まれている。しかし、居室数が 3 部屋以下である世帯が 13.2 パーセント、自分専用の部屋を持たないものが 12.5 パーセントいることも見逃せない。

表 3 親の健康状態*(%)

	(%)
問題なし**	89.3
どちらか問題あり	6.9
どちらも問題あり**	3.7
全体	100.0 (2521)

注 * 両親とも死亡及び不詳は除く
** ひとり親を含む

表 4 住宅の種類(%)

住宅の種類	(%)	(度数)
持ち家(一戸建て)	76.1	(2030)
持ち家(共同住宅)	5.2	(139)
民間の借家	9.6	(256)
給与住宅	0.8	(22)
公営借家	6.0	(161)
その他	1.0	(28)
不詳	1.2	(31)
合計	100.0	(2667)

¹ 「平成 10 年国民生活基礎調査 第 2 巻全国編」(第 10 表、p.191)によると、45 歳から 54 歳層において健康状態が「よい」、「まあよい」、「ふつう」と答えた者の割合は、86.7 パーセントであった。

² 「平成 10 年国民生活基礎調査 第 2 巻全国編」(第 14 表、p.60～63)によると、世帯主年齢 40～74 歳層における持ち家率は 68.6 パーセントである。

3. 該当個人の特徴

該当個人の 6 割は 20 歳代に集中

親族と同居する 18 歳以上の未婚者は、女性が 48.2 パーセント、男性が 51.8 パーセントと若干男性の方が多い。世帯内単身者自身の年齢分布についてみると(表 5)、全体の約 6 割(2,158 人)が 20 歳代に集中している。これに 30 歳代前半(491 人)を加えると、77.5 パーセントになる。

表 5 世帯内単身者の年齢分布(%)

年齢	女性 (%)		男性 (%)		全体 (%)	
-19	103	(6.3)	106	(6.0)	209	(6.1)
20-24	624	(37.9)	488	(27.5)	1112	(32.5)
25-29	500	(30.4)	546	(30.8)	1046	(30.6)
30-34	207	(12.6)	284	(16.0)	491	(14.4)
35-39	86	(5.2)	136	(7.7)	222	(6.5)
40-44	47	(2.9)	95	(5.4)	142	(4.2)
45-49	25	(1.5)	68	(3.8)	93	(2.7)
50-54	25	(1.5)	36	(2.0)	61	(1.8)
55-59	11	(0.7)	6	(0.3)	17	(0.5)
60-64	7	(0.4)	5	(0.3)	12	(0.4)
65-69	6	(0.4)	0	(0.0)	6	(0.2)
70-74	3	(0.2)	1	(0.1)	4	(0.1)
75-	3	(0.2)	1	(0.1)	4	(0.1)
合計	1647	(100.0)	1772	(100.0)	3419	(100.0)

男女別に平均年齢をみると、女性が 26.2 歳、男性が 27.6 歳で後者の方が高い。

該当個人は高学歴層に偏っているわけではない

表 6 年齢階級別学歴分布(%)

	義務教育	高校	専門・専修学校	短大・高専	大学以上	その他	合計 (度数)
-19	17.2	78.0	4.3	0.0	0.0	0.5	100.0 (209)
20-29	4.1	38.8	19.2	16.0	21.5	0.5	100.0 (2159)
30-39	6.3	43.1	12.9	13.3	23.8	0.6	100.0 (713)
40-49	19.1	45.8	5.9	5.5	21.6	2.1	100.0 (236)
50-59	22.8	48.1	5.1	8.9	12.7	2.5	100.0 (79)
60-	34.6	23.1	19.2	0.0	15.4	7.7	100.0 (26)
全体	7.0	42.6	15.8	13.4	20.4	0.7	100.0 (3422)

該当個人の学歴は、全体のなかで約 3 分の 1 が短大・大卒以上であり(表 6)、高学歴層に偏っているわけではないようだ。20 歳代においては、専門・専修学校卒(19.2%)と短大・高専卒(16.0%)の割合が他の年齢層に比べて高い。

³ 総務省「平成 9 年就業構造基本調査」(全国編、第 3 表)によると、30 歳代において大学以上卒業者の割合は 24.5 パーセントである。

表 7 学歴別就労形態 (%)

	フルタイム	パート	アルバイト	嘱託・派遣	仕事なし	不詳	合計 (度数)
義務教育	45.6	8.3	13.7	2.5	27.0	2.9	100.0 (241)
高校	59.8	7.4	11.9	6.0	13.6	1.2	100.0 (1459)
専門・専修	67.2	7.2	8.0	6.5	9.5	1.7	100.0 (539)
短大・高専	60.9	10.0	10.0	7.2	10.2	1.7	100.0 (460)
大学以上	74.7	2.7	4.7	4.9	10.9	2.1	100.0 (699)

学歴別に就労状況を見ると(表 7)、学歴が低くなるにつれ仕事を持たないものの割合が高くなり、義務教育のみ修了者の4分の1以上が仕事なしと答えている。しかし、短大・大卒以上でも約1割が仕事に就いていない。

多くは仕事を持ち、年金にも加入している

表 8 男女別・年齢別就労形態 (%)

		フルタイム	パート	アルバイト	嘱託・派遣	不詳	合計
性別	男性	79.5	3.9	9.9	4.6	1.9	100.0 (1549)
	女性	65.2	12.1	12.4	8.8	1.6	100.0 (1417)
年齢別	-19	54.3	11.3	27.8	4.6	2.6	100.0 (151)
	20-29	72.3	7.8	12.2	6.6	1.2	100.0 (1949)
	30-39	78.9	6.1	5.4	7.4	2.1	100.0 (607)
	40-49	74.1	7.8	5.2	6.2	6.7	100.0 (192)
	50-59	70.7	15.5	6.9	6.9	0.0	100.0 (58)
	60-	***	***	***	***	***	***
全体		72.7	7.8	11.1	6.6	1.8	100.0 (2966)

注 *** 該当サンプルが過小のため省略

就労状況をみてみると、該当個人の87パーセントは仕事を持っており、そのうちフルタイムで仕事をしているものが7割以上である。仕事を持っているもののうちその就労形態についてみてみると(表 8)、男女とも多数派はフルタイム就労であるが、男性に比べて女性はアルバイト、パート、派遣・嘱託の割合が高い。

表 9 年齢階級別年金加入状況(%)

	国年 (第1号)	厚生	共済	加入して いない	不詳	合計(度数)
20-29	24.4	57.6	6.8	8.4	2.8	100.0 (2159)
30-39	24.5	56.9	7.3	8.1	3.1	100.0 (713)
40-49	32.6	47.0	5.9	10.2	4.2	100.0 (236)
50-59	35.4	43.0	3.8	13.9	3.8	100.0 (79)
全体	25.3	56.3	6.8	8.6	3.0	100.0 (3187)

表 9 は、年齢階級別の年金加入状況である。保険料の支払いについての詳しい情報は無いが、加入していないと答えた割合は 20 歳代で 8.4 パーセント、30 歳代で 8.1 パーセントである。

7 割近くが貯蓄をし、3 分の 2 は家計に繰り入れ

貯蓄についてみてみよう(図 4)。該当個人の 70.4 パーセントは貯蓄があると答え、貯蓄がないとしたものは 25.3 パーセントである。10 歳代では多数派が貯蓄をしていないが、20 歳代になると 7 割以上が貯蓄をしている。年齢階級別に平均貯蓄高を推計してみると、20 歳代では 100 万円未満、30 歳代では約 240 万程度となる。

図 4 貯蓄の有無(%)

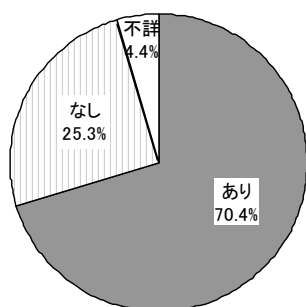


表 10 年齢階級別貯蓄あり率

年齢階級	貯蓄あり
-19	0.46
20-29	0.74
30-39	0.78
40-49	0.76
50-59	0.68
60-	0.95
全体	0.74*

注 * 年齢不詳を除く

どの程度家計への貢献があるかをみるために、繰り入れの有無をみたのが表 11 である。該当個人の 3 分の 2 は家計に繰り入れをしており、繰り入れをしている割合は年齢が上がるにつれて高くなる。30 歳代では 75 パーセントが繰り入れをしていると答え、40 歳代では 8 割が繰り入れをしている。平均して 28.5 千円の繰り入れが認められた。

表 11 年齢階級別繰り入れ有無率と平均繰り入れ額(千円)

年齢	繰入の有無	平均繰入額
		千円
-19	0.48	13.6
20-29	0.67	20.7
30-39	0.75	37.7
40-49	0.80	64.5
50-59	0.79	79.5
60-	0.87	75.4
全体	0.69	28.5

図 5 個人所得に占める平均繰り入れ割合(%)

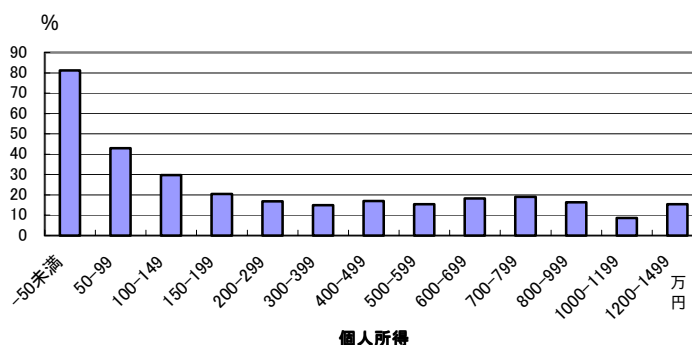
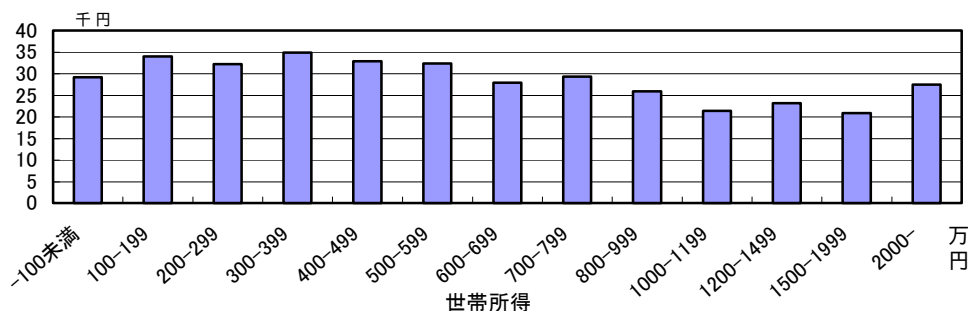


図 6 世帯所得階級別平均繰り入れ額(千円)



繰り入れがあったもののうち、個人所得に占める繰り入れ額の割合をみたものが図 5 である⁴。繰り入れ割合は低所得層の方が高いが、150 万円以上が 2 割程度となっている。結果を見る限り、所得に比例して繰り入れ割合が上がるというわけではないようだ。

繰り入れ額の平均を世帯の所得階層ごとにみても(図 6)、所得階層が低い層に比較的高い繰り入れが認められる。未婚親族が同居することは、その個

⁴ 月ごとの繰入額を 12 か月分にして年間個人所得で割った値である。しかし、特に 50 万円未満といった低所得層においては、毎月定期的に繰入があるとするのは過大評価の可能性のあることを留意されたい。

人が家族との同居による経済的恩恵を一方的に受けているばかりというわけではないようだ。

休日に女性は7割、男性は3割程度家事をする

ここでは家事時間をみることで、同居に伴う時間の貢献度についてみてみよう(表12)。家事時間については、男女差が認められた。平日仕事を持つ男性の7割以上が全くしないと答えているが、女性の場合は4割弱である。しかし、仕事を持たないものは、男性の約3割、女性の約7割は何らかの家事を行っている。

表12 男女別仕事の有無別家事時間(%)

仕事の有無	平日				休日			
	男性		女性		男性		女性	
	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
まったくしない	73.0	58.7	39.1	16.5	58.7	53.8	24.8	14.8
15分未満	9.7	9.0	16.0	7.4	9.4	7.2	12.0	6.1
15~30分未満	6.1	6.3	17.2	7.4	8.1	4.9	14.0	7.8
30分~1時間未満	4.1	5.8	15.7	17.0	6.3	5.4	20.3	17.8
1~3時間未満	3.0	7.2	8.2	27.4	4.7	9.0	16.9	23.5
3~5時間未満	0.1	1.3	1.3	8.7	1.3	0.9	3.2	9.6
5~8時間未満	0.0	0.0	0.3	3.9	0.2	0.4	0.8	3.9
8時間以上	0.2	0.9	0.2	5.2	0.1	0.9	0.5	3.5
不詳	3.7	10.8	1.9	6.5	11.2	17.5	7.5	13.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(度数)	(1549)	(223)	(1417)	(230)	(1549)	(223)	(1417)	(230)

若年層に多い友人とのつきあい、女性に多い旅行

最後に該当個人のライフスタイルについてみてみよう。表13は、年齢階級別に特定の活動の頻度についてみたものである。外食は40歳代、50歳代で「ほとんどしない」とする割合が高い。趣味娯楽も年齢が上がるに従って、活発ではなくなっている。年齢的には20歳代が趣味娯楽に最も積極的であるようだ。旅行については、過半数近くが「ほとんどしない」としているが、男女差が大きい。女性の半数以上(56.4%)は年に数回程度とし、ほとんどなしが36.7パーセントである。一方男性については、ほとんど旅行をしないとしたのは6割である。

友人とのつきあいについては年齢差が大きく、10歳代は特に活発である。40歳代から友人とのつきあいが少なくなっていくが、近所つきあいは50歳代以

降増える傾向にある。家族との会話については、ほとんどなしとしたものは少数派である。

表 13 ライフスタイル状況（％）

	年齢別	ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんどなし	不詳	合計
外食	-19	3.8	22.5	42.1	14.4	13.9	3.3	100.0
	20-29	8.0	29.9	41.4	8.8	9.0	2.9	100.0
	30-39	14.0	20.5	34.9	11.4	13.0	6.2	100.0
	40-49	7.6	12.7	27.1	16.5	29.2	6.8	100.0
	50-59	7.6	10.1	20.3	26.6	30.4	5.1	100.0
	60-	0.0	7.7	34.6	19.2	19.2	19.2	100.0
	全体	8.9	25.7	38.6	10.7	12.1	4.1	100.0
趣味 娯楽	-19	6.2	26.8	33.0	12.0	16.3	5.7	100.0
	20-29	6.0	29.4	34.3	15.0	10.9	4.4	100.0
	30-39	4.6	23.6	35.3	17.5	10.4	8.6	100.0
	40-49	4.2	15.3	27.1	20.3	23.7	9.3	100.0
	50-59	3.8	13.9	20.3	24.1	27.8	10.1	100.0
	60-	0.0	11.5	11.5	11.5	34.6	30.8	100.0
	全体	5.5	26.5	33.4	15.9	12.6	6.1	100.0
旅行	-19	0.5	0.0	0.5	23.4	70.3	5.3	100.0
	20-29	0.4	0.3	1.9	51.4	41.8	4.2	100.0
	30-39	0.4	0.3	2.2	47.5	41.0	8.6	100.0
	40-49	0.0	0.0	1.3	33.9	53.8	11.0	100.0
	50-59	0.0	0.0	1.3	36.7	54.4	7.6	100.0
	60-	0.0	3.8	0.0	30.8	38.5	26.9	100.0
	全体	0.4	0.3	1.8	47.2	44.5	5.9	100.0
ボラン ティア	-19	1.4	0.0	1.0	5.7	86.1	5.7	100.0
	20-29	1.1	0.7	2.4	7.5	83.9	4.4	100.0
	30-39	2.0	0.8	1.5	11.1	75.2	9.4	100.0
	40-49	1.7	0.4	3.4	10.6	72.5	11.4	100.0
	50-59	0.0	1.3	6.3	12.7	70.9	8.9	100.0
	60-	0.0	3.8	0.0	3.8	65.4	26.9	100.0
	全体	1.3	0.7	2.3	8.5	81.0	6.3	100.0
近所 づき あい	-19	6.2	3.8	7.2	6.2	69.4	7.2	100.0
	20-29	1.4	3.1	6.8	10.8	72.5	5.4	100.0
	30-39	3.8	3.8	7.3	12.3	62.6	10.2	100.0
	40-49	3.4	3.8	10.6	12.3	56.8	13.1	100.0
	50-59	11.4	11.4	19.0	12.7	35.4	10.1	100.0
	60-	3.8	3.8	11.5	15.4	42.3	23.1	100.0
	全体	2.6	3.5	7.5	11.0	68.1	7.3	100.0

表 13 ライフスタイル状況 (%) (続き)

	年齢別	ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんどなし	不詳	合計
同僚・上司づきあい	-19	7.2	10.5	23.5	15.3	33.5	10.0	100.0
	20-29	5.9	12.0	34.2	24.5	17.1	6.4	100.0
	30-39	5.5	11.9	27.5	24.1	21.5	9.5	100.0
	40-49	4.2	5.5	22.0	25.0	29.2	14.0	100.0
	50-59	10.1	8.9	10.1	25.3	32.9	12.7	100.0
	60-	0.0	15.4	0.0	7.7	46.2	30.8	100.0
	全体	5.8	11.4	30.5	23.7	20.4	8.1	100.0
友人づきあい	-19	26.3	38.3	23.0	4.8	4.3	3.3	100.0
	20-29	7.2	35.7	38.0	11.4	4.2	3.6	100.0
	30-39	3.6	24.5	39.6	17.8	7.7	6.7	100.0
	40-49	2.1	14.4	32.2	25.4	15.7	10.2	100.0
	50-59	5.1	15.2	31.6	27.8	16.5	3.8	100.0
	60-	3.8	3.8	26.9	23.1	23.1	19.2	100.0
	全体	7.2	31.3	36.7	13.8	6.1	4.8	100.0
友人会話	-19	56.0	25.4	10.5	1.4	2.9	3.8	100.0
	20-29	39.2	35.1	14.3	4.4	3.4	3.8	100.0
	30-39	22.9	33.0	20.9	9.7	7.3	6.3	100.0
	40-49	10.2	20.3	25.0	15.7	16.5	12.3	100.0
	50-59	13.9	20.3	22.8	17.7	16.5	8.9	100.0
	60-	7.7	3.8	19.2	23.1	19.2	26.9	100.0
	全体	34.0	32.4	16.4	6.5	5.5	5.2	100.0
家族会話	-19	81.3	11.0	1.4	0.0	2.9	3.3	100.0
	20-29	46.0	13.8	3.7	1.0	2.3	3.2	100.0
	30-39	69.6	14.4	4.2	1.3	5.0	5.5	100.0
	40-49	66.9	11.0	4.2	3.4	7.6	6.8	100.0
	50-59	78.5	8.9	2.5	1.3	5.1	3.8	100.0
	60-	61.5	3.8	7.7	3.8	11.5	11.5	100.0
	全体	74.3	13.4	3.7	1.2	3.4	4.0	100.0